

令和8年度 学校経営計画

四條畷市立田原小学校

校長 広谷 光輝

Ⅰ 学校経営方針

令和4年1月に策定の「四條畷市教育振興基本計画」の基本理念は「みんなの学びが叶うまち ～生涯学び 夢 挑戦～」とされており、「予測不可能な時代を豊かに生き、未来を拓く人材を育成するには、子どもからおとなまで、すべての人々が個性や創造性を発揮し、夢や可能性に挑戦しながら、協働し、学び続けることができる環境づくりが必要」と示されている。

そこで、今年度の学校教育目標を、「粘り強く学習に取り組める子どもの育成」の育成とし、最後まであきらめず粘り強く学習課題に取り組める児童の育成をめざすこととした。

具体的に下記の5点を掲げ、教職員一丸となって取り組んでいきたい。

①授業改善

“誰ひとり取り残さない授業”をめざし、全員参加の授業づくりに学校全体で取り組む

⇒授業におけるポジティブ行動支援に学校全体で取り組む

⇒教室環境のユニバーサルデザイン化を見直し、授業のユニバーサルデザイン化（UDL）に学校全体で取り組む

②粘り強い子どもたちの育成

“結果”にこだわるのではなく、粘り強く物事に取り組んだ“過程”を評価する体制の構築

③家庭学習の改革

平日の学習時間を30分以下と回答する児童を減少させる

⇒宿題と家庭学習の習慣化

④児童・生徒支援コーディネーターを活用した取組み

・校則を教職員と考える取組み

・担任の先生だけでなく誰にでも相談できる体制の構築

・「みんなの部屋」の安定した運営

・ポジティブ行動支援に関する研修会のコーディネート

⇒児童の自己肯定感、自己有用感の向上・心理的安全性の向上

⑤教職員の資質向上

・各種研修会に積極的に参加し、学び続ける姿勢を意識する

・自他共の思いを大切にできる集団づくり

2 めざす学校像、子ども像、教師像（中期目標）

★めざす学校像	みんなが笑顔で、温かく、思いやりにあふれた学校
★めざす子ども像	何事もあきらめず、最後までチャレンジできる子
★めざす教師像	相手の気持ちを慮り、互いのいい所を認め、助け合いながら教育実践を行える教師

3 学校の現状(よさと課題)

(1) 子どもたちの実態

多くのこどもは素直でやさしい。学校へ登校することも楽しみしている子も多い。黄帽の着用やあいさつなども多くの子どもたちはしっかり守って登校できている。しかしながら、ここ数年、公共の場所での過ごし方、交通マナーなどで、地域よりお声をいただくことも増え、授業に必要な物がなかなか揃わない子どもも少なからずおり、学習環境の格差を感じる機会も増えている。

(2) 子どもたちを取り巻く環境

①教育環境

たいへん広い校区で、自然に恵まれ、地域に公園も多く、数々の歴史遺産もあり、学び多き環境にある。また、1小1中の校区であり、小中学校の連携した取組みは進めやすい。

②地域

学校教育及び子どもの教育全般に概ね協力的であり、子どもに対する働きかけも積極的である。子育てを終えられた世代の方々が、積極的に子どもたちの教育に関わろうとしていただいているのが大きな特徴と言える。

③組織(教職員、PTA、保護者)

教職員はまじめで子どもや保護者に対して、寄り添い、熱心に取り組める。問題行動等に係る子どもへの指導も教師の感覚による一方的な指導ではなく、子どもの話をしっかりと聞き、安心感を持たせながら、解決に向かう意識が高まっている。今年度は、ルールを子どもたちとともに考え、見直し、ルールを守らせるのではなくルールを守る雰囲気づくりができるような指導を行っていきたい。

また、PTAは学校運営や学校行事等に関し、理解を示していただいております。常に役員会等において、情報共有しながら、進めている。また、ボランティアを募集しても多くの方に参加いただき、世間的に難しいとされるPTA活動も継続して行われている。

4 今年度の達成目標、具体的な方策

目標設定区分Ⅰ『学校経営』

A 今年度の成果目標	達成基準(各種調査、アンケート等)	
<p>①子どもの心理的な安心・安全の確保を最優先に置いた学校運営に努める。人権意識を高め、他者との関わりを通して、より一層の「自己肯定感や自己有用感の醸成」を図る。</p> <p>②今年度は、研究教科を設定せず、誰一人取り残さない授業づくりをめざし授業改善に取り組んでいきたい。また、朝学習、廊下掲示家庭学習の改善に組織的に取り組み、学習習慣や学力の基礎基本をしっかりと確立させていきたい。</p>	<p>①学校教育自己診断等 児童保護者教職員アンケート</p> <p>A (児)「つらい時や困っているときに、相談することができている」</p> <p>B (保)「学校は、子どもの人権を尊重した指導を行っている」</p> <p>C (児)「先生は、いじめは絶対にいけないと教えてくれていると思う」</p> <p>D (教)「いじめについて情報収集や対応及び未然防止など適切に取り組んでいる」</p> <p>E (児)「人の役に立つ人間になりたいと思う」</p> <p>②学校教育自己診断等 児童保護者教職員アンケート</p> <p>A (児)「自分が苦手なことやできないことにもチャレンジするようにがんばっている」</p> <p>B (保)「先生はわかりやすい授業をしている」</p> <p>C (児) 平日の家庭学習時間30分以下の児童の割合の減少</p> <p>D 全国学力・学習状況調査</p>	
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
<p>①人権意識、自己肯定感、自己有用感の醸成</p>	<p>①A 95%以上</p> <p>①B 90%以上</p> <p>①C 90%以上</p> <p>①D 100%</p> <p>①E 80%以上</p> <p>※肯定回答</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全校集会や各行事等取組みでの講話や評価 ・各学年の人権教育や道徳教育の適切な指導と授業の充実 ・学校だよりやその他の機会を通して、家庭や地域へも方針を伝えるよう発信 ・児童が自ら考え中心となる学校行事や学年、学級の取組み学校のルールづくり等を通して、自己肯定感や自己有用感、人の役に立つ喜びや心地よさを体感 ・道徳やキャリア教育を通して、将来の夢や目標を明確に持てるような取組みを推進
<p>②ポジティブ行動支援、授業のユニバーサルデザイン化(UDL)の校内研究、自学自習力の向上</p>	<p>②A 90%以上</p> <p>②B 80%以上</p> <p>②C 15%以下</p> <p>②D 全国平均</p> <p>※肯定回答</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年に複数回の校内研究授業の推進 ・校内研究の成果を踏まえた各学年での実践 ・教室環境のユニバーサルデザイン化や授業のユニバーサルデザイン化(UDL)の研修の充実 ・教員の指導力及び資質向上に向けた研修の実施 ・家庭学習の充実に向けた校内掲示や保護者向け文書の発行

目標設定区分2 『学校組織の運営』

A 今年度の成果目標	達成基準(各種調査、アンケート等)	
<p>教職員一人ひとりが明確なミッションのもと、やりがいをもって担当に当たれるよう適材適所を意識した学校組織体制を構築とともに、質の高い学校運営をめざす。</p> <p>①管理職、教務主任、各部長、(学年主任)等による集まりを効率的に開催するとともに、都度学校長のビジョンを明確に示しつつ、円滑な学校運営の推進を図る。</p> <p>②教職員間で「認め合い、支え合い、助け合い」の意識のもと、組織を超えたサポート体制がとれるよう意識醸成を図り、温かく風通しの良い職場環境をめざす。</p> <p>③支援教育の視点を取り入れた授業づくり、コミュニケーションの構築等、取組みの推進を図る。相手が大人でも子どもでもまずは安心できる言葉かけやフォローに努めながら、必要な指導を行う意識を確立させたい。</p>	<p>①教職員アンケート</p> <p>A (教)「学校長の示すビジョンが明確であるか」(</p> <p>B (教)「学校運営の状況や課題を全教職の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいるか」</p> <p>②教職員アンケート</p> <p>A (教)「認め合い、支え合い、助け合う温かい職場環境の雰囲気がありますか」</p> <p>③学校教育自己診断等 教職員アンケート</p> <p>A (教)「すべての児童が学習に参加し、理解できるよう、学習中の手立てや支援を行いましたか」</p> <p>B (児)「先生はあなたの良いところを認めてくれていると思いますか」</p>	
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
①学校長のビジョンを踏まえた円滑な学校運営の推進	<p>①A 90%以上</p> <p>①B 90%以上</p> <p>※肯定回答</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・部会や特別委員会の前に責任者に集まってもらい、学校長からのビジョンを明確、かつわかりやすく共有 ・各部会において、情報共有の場を定期的に設定 ・学校組織が効果的に動くよう、PDCAサイクルを意識しながら、改善を図るよう努める。
②認め合い、支え合い、助け合う温かい職場環境づくり	<p>②A 80%以上</p> <p>※肯定回答</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校長として、全職員とのコミュニケーションを図るよう努める ・意図的に校長室での会議開催、職員室での立ち話で交流等、適宜、教職員とのコミュニケーションを図る。 ・職員室は一つの学級との意識のもと、常に教職員の行動には気配りを行う。
③支援教育の視点を取り入れた取組み及び関わりの推進	<p>③A 90%以上</p> <p>③B 90%以上</p> <p>※肯定回答</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校長のビジョン及び発信のもと、支援教育担当者からの発信及び研修の企画立案 ・市が提唱するまなびのプランを常に意識した発信 ・「児童への共感」や「安心感を与える関わり」の共有 ・発達段階に応じた子どもの特性や子ども理解の研修実施

目標設定区分3 『人の管理・育成』

A 今年度の成果目標		達成基準(各種調査、アンケート等)
<p>教職員の資質向上とキャリアステージに応じた人材育成に重点を置く。</p> <p>①教職員の人権意識の醸成や資質向上を図り、児童や保護者、地域から信頼される組織化された教職員集団をめざす。</p> <p>②教職員の働き方改革も踏まえ、各取組みや会議等がより効果的かつ効率的に進むよう、組織化された会議の運営を模索する。</p>		<p>①学校教育自己診断等 児童保護者教職員アンケート</p> <p>A (保)「学校へ行くのを楽しみにしている」</p> <p>B (保)「学校はお子さまのことについて、適切に相談にに応じている」</p> <p>C (児)「学校は楽しい」</p> <p>D (児)「先生は困ったときに相談にのってくれる」</p> <p>②学校教育自己診断等 教職員アンケート</p> <p>A (教) 教職員の時間外勤務実態</p> <p>B (教)「各会議の運営では、案件の整理などにより時間短縮もでき、効率的に実施することができた」</p>
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
①児童や保護者、地域から信頼される教職員	<p>①A 90%以上</p> <p>①B 90%以上</p> <p>①C 90%以上</p> <p>①D 90%以上</p> <p>※肯定回答</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員同士が日頃からコミュニケーションを図り、良好な関係を構築 ・子ども理解や支援教育の視点等、子どもや保護者に寄り添う視点を明確にするとともに、教職員が共通認識できる機会を設定 ・サービス管理に係る不祥事防止に向けた研修や発信等実施
②教職員の働き方改革	<p>③A 1年間の時間外勤務時間の平均を30H/月以内</p> <p>③B 80%以上</p> <p>※肯定回答</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・部長会議、学年主任会議等の体制構築による組織化された会議の在り方を位置づける ・会議の参加者を精選し最大限の効果があがる工夫をする ・校務支援システムやICT機器の活用による業務時間の短縮

目標設定区分4 『地域連携と渉外』

A 今年度の成果目標		達成基準(各種調査、アンケート等)
<p>こ小中連携・一貫教育を基軸とし、地域コミュニティづくりの推進を図る。</p> <p>①学校運営協議会制度(コミュニティ・スクール)の研究及び周知の充実を図り、本制度が主体となった取組みを1点展開</p> <p>②田原地区のこ小中連携・一貫教育の取組みのより一層の充実を図るとともに、PTA活動や田原地区教育推進協議会と連携した取組みを通して、家庭教育支援の充実に努める。</p>		<p>①田原中学校と連携し、学校運営協議会制度(コミュニティ・スクール)について、学校だよりや各会議において、保護者や地域への発信を行い、学校運営協議会の円滑な運営を図る。</p> <p>②学校自己診断等 児童保護者教職員アンケート A(保)(児)(教)「中学校や地域、PTAとの連携」に関する質問</p>
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
①学校運営協議会制度(コミュニティ・スクール)の周知	学校だより発行2回以上	・学校だよりや各会議において、保護者や地域への発信を行う。
②田原地区のこ小中連携教育の取組みの充実	②A保85%以上 児90%以上 教85%以上 ※肯定回答	<p>・学校、PTA、地域行事について、こ小中が連携した取組みを行う。</p> <p>・家庭教育及びその支援の必要性について啓発</p> <p>・SC、教育支援ルーム、市役所関係部局及び外部機関等の協力を得た保護者啓発事業の実施</p>